令和３年度
奄美群島ユニバーサルツーリズム推進事業
報 告 書

令和４年３月

鹿児島県大島支庁

目　次

１．はじめに

１－１　本事業について …… 1

２．地域の関係者による検討会の開催

２－１　与論島検討会の開催 …… 3

２－２　喜界島検討会の開催 …… 7

２－３　与論島、喜界島の検討会より …… 11

３．モデルコース設定のための現地調査の実施

３－１　与論島の現地調査とモデルコース(案) …… 12

３－２　喜界島の現地調査とモデルコース(案) …… 21

３－３　現地調査で把握された課題と奄美群島内の解決策事例 …… 31

４．モニターツアーによるモデルコースと受入状況の検証

４－１　奄美大島・喜界島のモニターツアーの催行 …… 34

４－２　徳之島・沖永良部島・与論島のモニターツアーの催行 …… 49

４－３　モニターツアーによる検証結果 …… 65

５．奄美群島のユニバーサルツーリズム推進へむけて

５－１　奄美群島のユニバーサルツーリズム推進の要点 …… 78

参考資料

・奄美群島ユニバーサルツーリズム検討会次第、参加者名簿

１．はじめに

１－１　本事業について

令和元年末から続く新型コロナウイルス感染症の蔓延は、令和４年現在も国内各地の観光産業に多大な打撃を与え、奄美群島においても例外ではなく、気軽に旅行や観光を楽しむことが難しい状況にある。

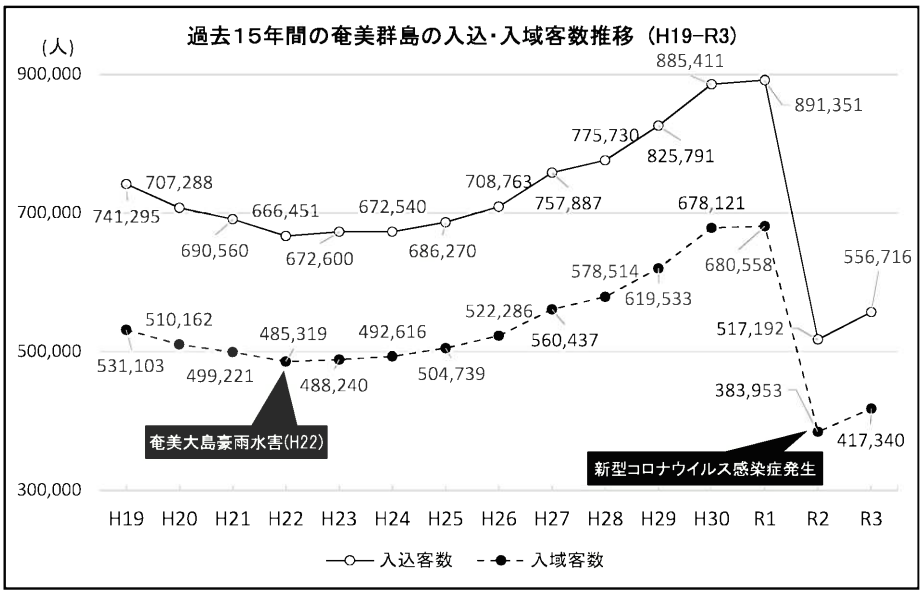
一方、世界自然遺産「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」は、令和３年５月のIUCNの勧告を受け、7月の世界遺産委員会で世界自然遺産に登録がなされた。これは、奄美群島の観光の好機であり、健常者に加え障がい者や高齢者等の広い客層が奄美の島々で観光を楽しめるコース整備と各島および群島全体の受け入れ態勢構築は喫緊の課題といえる。

奄美群島の入込・入域客数は、令和元年が過去15年間で最多数を記録していたが、令和２年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、対前年比で入込客数が-42.0%、入域客数が-43.6%と大きく下落したものの令和３年の入込・入域客数は、コロナ禍にありながら令和２年に比べ、入込・入域客数ともに増加傾向が見られた。その要因として、鹿児島県による「今こそ鹿児島の旅」等の観光需要喚起策が奏功したものと考えられる。

以下に平成19年から令和３年まで15年間の奄美群島の入込・入域客数の推移を示す。

（人）

	入込客数	入域客数
H19	741,295	531,103
H20	707,288	510,162
H21	690,560	499,221
H22	666,451	485,319
H23	672,600	488,240
H24	672,540	492,616
H25	686,270	504,739
H26	708,763	522,286
H27	757,887	560,437
H28	775,730	578,514
H29	825,791	619,533
H30	885,411	678,121
R1	891,351	680,558
R2	517,192	383,953
R3	556,716	417,340



令和３年の入込客数は、556,716人で令和２年の517,192人に対し39,524人の増加で前年の107.6%、入域客数は、417,340人で前年の383,953人に対し33,389人の増加で108.6%であり、奄美群島の来訪者数の回復の兆しがうかがえるものとなっているが、新型コロナウイルス感染症は、一昨年来、相次ぐ変異種による感染者の増加の波が生じるため、観光需要の回復については、予測は難しい状況にある。

今後の奄美群島の観光振興を考えるにあたり、来島前のワクチン接種やPCR検査あるいは抗原検査等の受診を広く周知するとともに、引き続き、各種の感染症対策を行いながら奄美群島を訪れる多くの人が安全に、安心して観光を楽しむための方策を確実に実施していく必要がある。

本事業では、新型コロナウイルス感染症の状況に即した感染症防止対策を行いながら、障がいの有無や年齢等に関わらず、誰もが奄美群島を安心して楽しめる観光モデルコースを企画・検討し、各島における受入れ体制の構築を視野に各種の取組を実施した。

本事業の主旨である「誰もが安心して奄美群島の旅行を楽しむ」ためには、群島側の観光受入れ体制が要点となるため、保健福祉と観光、交通、行政の関係者を交え、奄美群島のユニバーサルツーリズムの普及と促進による観光交流人口の拡大を目的に検討を行った。特にモニターツアーでは、各島の検討結果を踏まえ、ユニバーサルツーリズムという奄美群島の新分野の旅行のあり方や受け入れ方策の確認を目的に、車いすを利用する障がい者と高齢者を対象に催行し、各島のモデルコースの検証とあわせて、コロナ禍終息後を見据えた観光交流人口の回復に資することを目指した。

（１）事業概要

① 喜界島と与論島で観光、交通、障がい者・高齢者福祉等の関係者による検討会の開催

喜界島、与論島で、観光推進団体およびエコツアーガイドを含む観光事業者、障がい者や高齢者団体の関係者、行政機関の観光と保健福祉担当部署等を委員に検討会を開催し、現状把握や課題共有と各島の資源を活かしたユニバーサルツーリズムのモデルコース設定と受入れ体制構築を目的に議論を行う。

また、専門的な知見を有する島外委員のオンライン参加をあわせて行う。

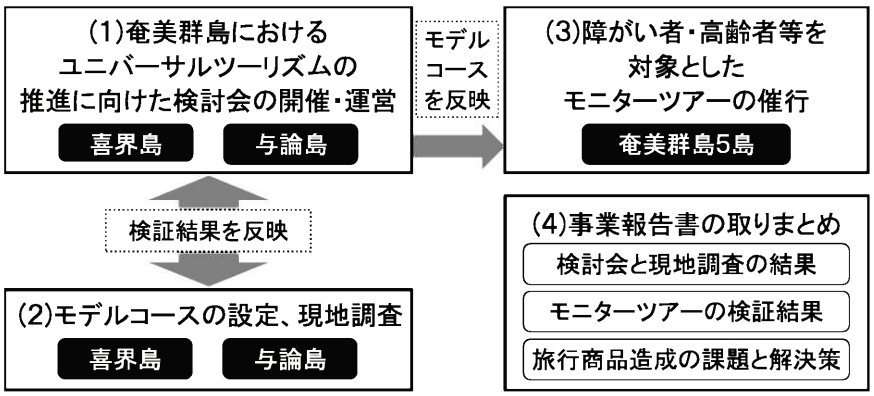
② ユニバーサルツーリズム旅行商品のモデルコース設定と現地調査による検証

①の検討会の議論を踏まえ、喜界島と与論島のユニバーサルツーリズムのモデルコース設定を目的とする現地調査を行い、検討会委員とともに旅行商品化のための各種の検証を行う。

③ モニターツアーによる各島のユニバーサルツーリズム旅行商品造成から販売の課題抽出と受入れ体制の基盤構築

①、②の成果をもとに、奄美群島のユニバーサルツーリズム旅行商品造成に向けたモデルコースの検証を目的にモニターツアーを催行し、島外委員がモニターとしても参加し、課題抽出を行う。また、新型コロナウイルス感染症の状況次第になるが、モニターツアーの往訪先の各島において、受入れ体の制認を兼ねた各島の保健福祉菅家者や観光推進団体関係者を交え、モニターツアー参加者との意見交換を行う。

（２）事業の実施項目と作業フロー

実施項目	**（１）地域の関係者による検討会の開催とモデルコースの検討** **（２）モデルコース設定のための現地調査と旅行商品造成を目的とする検証の実施** **（３）検証結果の共有と事業報告書の取りまとめ**
作業フロー	

２．地域の関係者による検討会の開催

２－１　与論島検討会の開催

（１）検討会開催概要

与論島の保険福祉、観光、交通および行政関係者を委員として「奄美群島ユニバーサルツーリズム推進事業　与論島検討会」を２回開催した。

与論島検討会の開催概要を以下に示す。

第１回

①開催日時：令和３年９月３０日(木)
　　１６：００～１８：００

②開催場所：与論町役場１Ｆ多目的ホール

第２回

①開催日時：令和３年１１月１０日(水)
　　１６：００～１８：００

②開催場所：与論町役場１Ｆ多目的ホール

第１回、第２回

③出席者：（委員）与論町の保健福祉担当部署、観光担当部署、与論町内の保健福祉団体、観光推進団体、交通事業者、観光事業者　他
（有識者）島外の介護施設関係者（第２回）
（オブザーバー）鹿児島県与論事務所、事務局

（２）検討会開催結果

第１回および第２回の「与論島検討会」出席者の主な意見を以下に示す。

●第1回検討会の意見

(1)情報発信と対応可能な施設について

・観光協会のホームページで簡単な(車いす対応の)施設紹介はしているが、バリアフリーについての情報はない。与論島で対応している施設は少ないと思う。
・宿泊施設は、年に1、2組ほど障がい者の方から問い合わせがある。
・杖で歩ける方でもちょっとした段差でつまずいてしまうことがある。整備されていない魅力もあると思うが、観光地、施設ごとに対応が必要になる。
・知る限りは、バリアフリールームのある宿泊施設は与論島内にはない。
・(宿泊施設)障がい者の方が年に2、3組、足の悪い方や半身不随の方も宿泊したことがある。全ての部屋が2階にあるが、荷物は運ぶものの基本的には自分で対応していただいている。
・(カフェ)車いすで利用できる。トイレはバリアフリーに対応してないが、与論島の公衆トイレは充実しているので利用している。
・トイレ等への移動も高低差がある。
・トイレはバリアフリー対応のものが多いと思っている。
・与論駅はスロープが付いていて上まで行けるが、周辺が舗装されておらず砂利敷きないので、そこに行くまでが大変。

・ビーチは船揚げ場があるところは近くまで行けるところもあるかもしれない。
・島のサザンクロスセンターではスロープが設けられていて車いすの方が利用できる。
・大金久海岸で新しく整備する施設では、バリアフリーとして入口にスロープを整備している。屋上には階段で移動するので、車いす利用者の方はスタッフが対応しないといけないかもしれない。

(2)島内の移動手段等について

・観光協会でエコカーを所有しているが、車いすの方の利用は厳しい。
・バスとタクシーに車いす対応の車両はない。
・(タクシー)タクシーは、年に 1、2 回は利用者がいて、運転手が力づくで乗せ、必要な場合は運転手が買い物の手伝いもしている。
・(観光バス)2 ステップなのでみんなで協力して乗り降りをサポートしている。
・移動手段の提供については、考える必要がある。
・車いすの貸し出しや車いす利用のできる宿泊施設、宿泊施設で浴室が使えないので借りるところはあるかといった問い合わせがある。
・車いす専用車両を貸し出していて、病院や、買い物、ドライブに短時間利用することができる。10 キロまで 200 円、社協の事業と併用しているのでいつでも貸し出すのは難しい。
・リクライニングの車いすは入らないので、重度障害を持っている方は厳しいかもしれない。
・フェリーでは、車いす対応の車両を所有しているが、通常は軽自動車で対応している。観光利用はほぼなく、島内の足の不自由な方や骨折をした方などが利用している。
・電動車いすの場合には、専用車両で案内している。船内はバリアフリー構造だが、(車いす利用者が)団体で来た場合には、時間が必要で対応が厳しい。
・与論島でのフェリーの停泊時間は約 30 分で、100 トン以上の荷物の上げ下ろしをしながら乗船客に対応している。対応が必要なお客様がいるときは対応するように指示されているが、人数が多いと人手不足なところもあり非常に厳しい。通常は、1 人、2 人なので対応できている。
・与論島は平坦な道が少なく、皆田海岸も急な坂だったり、銀座通りも凸凹していて車いすで移動しづらいところも多い。

(3)アクティビティについて

・アクティビティでは、当日迎えに行ってから車いす利用者だったことが分かることがあるが、準備が必要なので戸惑う。
・体験メニューに棲み分けや告知が必要かもしれない。
・目の不自由な方と健常者では楽しむポイントが違うので急遽別メニューを用意することになる。
・27 人乗りのボートに車いすの方を乗せる時は、男四人がかりで乗せている。当日急に分かっても、スタッフや機材の用意が必要なので赤字になってしまう。
・高齢者もまちあるきツアーに参加していて、増えている。
・足が悪い方を案内する時は、スピードに合わせるしかない。
・ドライブしかできないかもしれない
・ガイドがいないと島を回るのは難しいようなので、毎日別のガイドさんを頼んでいたようだ。
・与論十五夜踊り(国指定重要文化財)を見る際、スロープがあるので入りやすいとは思うが、傾斜のきついところもあるので、介助する人が必要かもしれない。

(4)受入れで留意していることについて

・高齢者の身体能力も人それぞれであり、坂道の下りは良くても上りで置いていかれることがある。
・ツアーだと時間が制限されているので、健常者でもついていくのが大変という方もいた。

・時間を伸ばすと契約上の問題もある。ツアー会社もゆとりを持って時間を組んで欲しい。
・冬場は高齢者の方をバスツアーで案内していて、足の悪い方に合わせている。
・車いすの方はできる限りサポートしていても、自分たちが車いすの扱いに慣れていないためかえって迷惑をかけているのではないかと思っている。
・観光でタクシーを貸し切った方で透析が必要な人がいて、与論病院が対応できた。
・杖をついている方でも観光地によっては健常者についていけない時があり、遺跡や階段のところで待ってもらうこともある。
・ツアーの場合は、先に連絡を受けているのでできる限り対応している。
・車いす利用者は年に 1、2 組ほどである。ツアーで、足の悪い高齢者がたまに訪れることはあるが、ゆっくり案内して足取りを合わせている。

（5）雨天時の過ごし方について

・(大金久海岸に整備予定の施設)雨天でもカフェやお土産以外に活用できるスペースを考えていきたい。
・海岸から海亀を見たりすることもあるが、天気の悪い時の対応は今後の検討課題である。
・案内していて天候が悪く、土砂降りの時もあった。百合ヶ浜を見ることができず、神社も屋外なので厳しい。
・屋内施設は、サザンクロスセンターか民俗村となり、1 時間で終わってしまう。酒造会社の酒蔵を見に行ったこともある。翌日も天候が悪いとすることがなくなってしまう。
・天候が悪い日は、健常者のお客様の場合は傘をさして案内することができるが、基本的に屋外の施設であり車いす利用者の方は足元が悪くなるので、入口に併設されている休憩所で休んでもらうことがある。
・夜間も開場できると良いが運用が大変。
・空いている屋根のある施設があるので、今後は利用を検討していけると良い。

●第2回検討会の意見

（1）モデルコースについて

・車いすで利用できる飲食店情報だけでなく、高齢者向けの食形態も重要。刻みやペーストされた食事を提供できるかの情報も大切。
・フルーツゼリーや茶碗蒸しなどの普通のメニューでも、誤嚥予防の食事をすることができる。

（2）体験プログラムについて

・百合ヶ浜のグラスボートに車いすで乗船することは難しいが、難しいアクティビティでも、スタッフとのコミュニケーションを楽しめるようにできると良い。

（3）ユニバーサルツーリズムの受入れ体制について

・旅先での車いすの貸し出しは、社会福祉協議会で車いすを借りられるようにすることが必要。
・高齢者にとって移動しやすくストレスなく過ごせる宿泊先に滞在する。
・旅行の行程を詰め込みすぎず、休憩時間を用意する。
・高齢者が横になって休憩できる場所を確保する。
・与論島内に介護タクシーはないが、町民向けの貸出用車両は社協に1台ある。
・移動は、車いすをたたんで載せられるレンタカーであれば利用できる。
・地元の住民がトラベルヘルパーとしてサポートできるようにする。
・福祉施設の職員が旅行をサポートできるように、有償ボランティアの仕組みを整える。
・雨天時に対応できる施設として、就労支援事業所を活用する。
・与論島の1か所ある就労継続支援 B 型施設の事業（製塩、もずく収穫、インゲン栽培等）を使った体験も良

いかもしれない。

・奄美群島全体の保健福祉関係の方の情報共有できる組織体制として、社会福祉協議会の局長会はあるがメンバー全員が集まる場はない。鹿児島県内や奄美群島内での社協の集まりはあるが、事業、制度の確認などがメインで深い話はあまりなく、観光の視点で話すことはほとんどない。

（３）検討会で把握された主要な課題

・社協の専用車両は島民向けの利用が本来目的のため、自由度の高い島内移動にレンタカーの利用可能性を確認する必要がある。

・トラベルヘルパー等の旅先（与論島）での介助や介護のサポートサービスの整備。

・車いすに対応している飲食店や宿泊施設の確認や器具のレンタルや与論病院が旅行者に対応できる医療サービス等の福祉関連の情報を観光協会者と共有する。

・ユニバーサルツーリズムのルートとあわせて雨天時に対応可能な観光ルートを検討する。

・与論町役場が集約している島内のトイレ情報を広く公開する。（観光協会サイトへの掲載）

２－２　喜界島検討会の開催

（１）検討会開催概要

喜界島の保険福祉、観光、交通および行政関係者を委員として「奄美群島ユニバーサルツーリズム推進事業　喜界島検討会」を２回開催した。

喜界島検討会の開催概要を以下に示す。

第１回

①開催日時：令和３年１１月１２日(金)
　　１８：００～２０：００

②開催場所：喜界町役場１Ｆ多目的ホール

第２回

①開催日時：令和３年１２月２１日(火)
　　１８：００～２０：００

②開催場所：喜界町役場１Ｆ多目的ホール

第１回、第２回

③出席者：（委員）喜界町の保健福祉担当部署、観光担当部署、喜界町内の保健福祉団体、観光推進団体、交通事業者、観光事業者　他
（有識者）島外の介護施設関係者（第２回）
（オブザーバー）鹿児島県喜界事務所、事務局

（２）検討会開催結果

第１回および第２回の「喜界島検討会」出席者の主な意見を以下に示す。

●第1回検討会からの意見

(1)ユニバーサルツーリズムの来島状況について

・問い合わせはあまりない。
・個人のお客様が少しで、喜界島出身者の方からの問い合わせが多い。親戚でツアーをする時に、車いすの問い合わせが年間 1、2 件くらい。
・(サンゴ礁科学研究所)車いすの人を対応したことがあるのは1件。補助の人が抱き上げて対応した。
・外国人は学生も含め英語で解説している。年間 10 人ぐらい訪れる。
・年齢層の高いシマ(集落)あるきの利用者全体の中では少ない。
・(よんよ～り喜界島)一度だけ視覚障がい者を受け入れたことがある。旅行を企画した人が準備を整えて、スムーズに案内ができた。安全面を担保するのが一番だが、かなり喜んでもらった。健常者とは違う視点の感想があって勉強になった。これからも受け入れていきたい。
・地形は平坦ではなく集落も緩やかな坂があるが、車いすで移動するのに支障が出るほどではない。
・島内や帰省の車いすの方が飲食に何名か来たことはあるが、多くはない。
・旅行者としては、車いすの方は見かけない。視聴覚障がい者が2名来たことがある。
・島内の障がい者の利用時は、付き添い者が時間に気を遣っているが、満席時は厳しいかもしれない。
・(少し手話ができる)聴覚障がい者の宿泊利用は、年間2桁にならない程度。
・(手話ができる人の)問い合わせがあって、コロナ前は2～3回来ていた。

(2)ユニバーサルツーリズムの受入れついて

・出身者が一時帰省に車いすが必要という相談があると、1 週間程度なら無料で貸し出している。
・利用件数は年に 2～3 名。ベッドも必要な方は数年に1回。
・一時帰省で車いすやベッドを借りられないかという問い合わせを社協や事業所に繋いでいる。
・ホテルでの入浴が困難な場合は、デイサービスや福祉施設に相談して、実費負担で入浴を介助。
・障がいの種類によるが、移動をいかにサポートできるか。
・宿の利用者は支えて車いすから移動させるが、本人が移動できるなら廊下に椅子を用意して対応。
・宿として大きく改善が必要だと思っている。
・(障がいのある子供が)発作を起こして、倒れてけがをしたので、壁や床にクッション性のあるものを使うなどの改善を行ってきた。
・県の巨大ガジュマルの公園整備事業の際、誰でも楽しめる施設にするために、道路と園内の段差をなくし、縁石を車いすの乗り降りができるようにする要望した。
・観光施設のトイレは、補助の人が入るには難しいところもある。
・トイレは古い施設も多く車いす対応をしておらず、数も少ない。
・高齢者、障がい者は、様々な理由で濡れたり汚れることがあるので、着替えや入浴ができる環境があれば安心するのではないか。喜界島の既存高齢者施設の協力を得て、入浴や着替えが安心してできる環境を整える必要がある。
・町内に公衆トイレが少ないため、今後、公衆トイレ（車いす用も含む）の増設が必要。
・手話サークルの人がリピーターとなり来てもらったりしている。
・外国人は仕事で来る人が多いが、片言の方が多いので対応できるが、食事は、宗教などに配慮。
・知的障がい者も楽しめるような、島の資源を生かした体験プログラムもあると良い。
・（よんよ～り喜界島）視覚障がい者の集落あるきは、手で触る、舐める、匂いを嗅ぐといった感覚的なものを、本人や周りと確認しながら楽しんでもらうようにした。サンゴ礁の石垣を触りながら移動したり、咲いていた花を触ったり、においをかいだりしていた。旅行に来る人は興味が強く前向きに楽しんでいたようだ。
・（サンゴ礁科学研究所）展示室に誘導して、手が空いているスタッフや学生が珊瑚などの説明をしている。お客様次第で1～2時間になる人もいる。車いすを使う高齢者などは、盛り上がって話をすることもある。
・（埋蔵文化財センター）展示では障がい者の方に対応したこともあり、車いすの方は 1～2 回来られた。必要な方には、職員が歴史の話をしている。
・（島内の遺跡）現在も発掘調査中の場所もあり、道路があれば近づけるが畑の中は段差も多く、車いすは厳しいかもしれない。整備している場所は、車の中から見ることもできる。
・喜界島のみなさんはお節介で親切なのでユニバーサルツーリズムは自然とできると良い。
・障がいに関わらず喜界島を楽しんでほしい。

(3)交通に関連する状況について

・喜界島航路のフェリーは、専用の福祉車両は導入していない。
・タラップの利用が困難な方は、頻繁ではないため、代理店が軽乗用車で車両甲板に移送し上下船。
・車いすの場合は事前に相談してもらい、島内の福祉施設に調整して下船時の対応を行うことがある。
・(障がいのある子供たちが)日常の楽しみや喜びを共に味わうためには、移動手段は重要。
・観光PRが少ない島だったこともあり、バス、レンタカーは、対応できるところが少ない。
・（埋蔵文化財センター）バイク、自転車の方からは場所が分かりづらいという声も多い。
・地域公共交通会議を設立予定。
・路線バス利用者アンケートでは、「車いすが載せられるバス車両があったら良い」、「段差がきつい」、「時刻

表が見づらい」、「バス停に椅子がないと立っているのが辛い」といった意見があった。

・（障がい者意見）「バス車内から景色を見るのが好きなので何度でもバスに乗りたい」

・（観光客意見）「バスは生活路線なので観光地を通っておらず加工センターを通るルートもあると良い」

（4）島内の観光資源について

【朝日酒造の見学】製造工程～出荷までの行程で、建物は1階と2階がある、自由に見学できる空間が多いわけではない。車いすの受けいれをしたことがあった。2階にあった原料説明など見せるようにした。お酒の現場でもあり、背景となる地域の歴史的特徴も見てもらえるように、できる範囲で対応したいと思っている。もう1社も同様と思う。まちあるきのルートとしては、酒造会社だけでなく地域として楽しんでほしい。会社としての受け入れ窓口も設けていて、コロナ禍でも連絡がきている。

【農産物加工センター】オオゴマダラの黄金の蛹が見ることができる。観光客や島外出身者が土日に来て、観察できるスポットになっている。加工センターの裏手の小高い場所に蝶の観察場所がある。ホウライカガミを植えていて、中庭に食草がある。年中見ることができるようにしてほしい。加工センターの施設自体が分かりづらい。

【バタフライロード】春～秋に、渡り蝶のアサギマダラが見ることができる。滝川集落の上にある。百の台と滝川の間の辺りも良い。

【小野津の上の星のきれいな場所】お客さまを連れて電気を消して空を見てもらうと喜ばれる。スギラビーチで寝転んで見るだけで、開放感を感じる。

【花良治の宮本商店】弁当や日用雑貨が売られている。お土産や駄菓子、ジュース、アイスを買うことができる。ゲームもできる。休憩は店の向かい側に少しある。休憩所の裏側は、半島状になっていて、国有地なので自由に入って海を見ることができる。

【楽しみ方の提案】歴史や言い伝えを観光に結び付けるために、小さな島を活かし、ゲーム感覚で出来るオリエンテーションをしてはどうか？1つの集落で数時間自由時間を作り、言い伝えや歴史の場所を探すといった形式にするなどが考えられる。

●第2回検討会の意見

（1）モデルコースについて

・車いすで利用できるトイレのある施設は以下の通り。
塩道長浜公園、阿伝集落、池治海水浴場、農産物加工センター、喜界町役場、フェリーターミナル、喜界島おみやげセンターヨシカワ、Aコープ、集落あるきの体験時に公民館のトイレを使うことは可能。

・高齢者は朝の準備に時間がかかるので朝早くからは動けない。ゆっくり朝ごはんを食べて、トレイを済ませておく必要がある。

・ビーチは近くまで行くだけで満足できることもあり、その人に合わせて考えてほしい。

・途中の休憩時間も大切。

・以前に喜界島に日帰りで遊びに来たことがある。笠利から海を見ながら海上タクシー※で移動すると、楽しいのではないか。喜界の港から1時間程度なら車いすがなくても、普通の漁船、釣り船、スキューバー用の船でも介助者も楽しいのではないか。海から奄美大島や喜界島が見られると面白い。
※事務局注：現在、奄美大島～喜界島間の海上タクシー事業者は無い。

・船舶の免許は、チャーターなら問題ないかもしれないが確認が必要。外海なので天候の影響が大きい。

（2）体験プログラムについて

・黒糖焼酎の酒造が作っている製糖のプロセスを観光のコンテンツとして活用する。

(3)ユニバーサルツーリズムの受入れ体制について
・車いす対応の車両は、タクシーはないが、ヘルパー事業所と社協に 2 台ある。運賃は介護用の費用で利用できる。 ・社協の連携はあるが、広く連携するには大島支庁が主体になった方が良い。大島支庁が主導で福祉を盛り上げるために福祉大会を開催していた時代があり、お祭りのようだった。今は方針が変わり各市町村、団体で行うようになり社協の集まりだけになっている。 ・リバビリの世界では体を直すだけでなく、人生を楽しんでほしいと考えている。観光と福祉の知識を一緒に考えられると良い。 ・ネットワークが大切である。高齢者、障害者が旅行できるようになると新しい産業につながるのではないか。

（３）検討会で把握された主要な課題

・島内で車いす対応のトイレが少なく、車いすで利用できるトイレの場所の周知が必要。

・車いすで利用できる飲食店や器具のレンタル等の福祉関連の情報を観光推進団体や観光関係者と共有する。

・車いすでも利用可能な島内の宿泊施設を把握する。

・ユニバーサルツーリズムのルートとあわせて雨天時に対応可能な観光ルートを検討する。

・社協の情報共有の場の整備や社協関係者間の観光関連情報を共有する。

２－３　与論島、喜界島の検討会より

与論島、喜界島の「奄美群島ユニバーサルツーリズム推進事業　検討会」の結果より２島に共通する課題と島ごとの課題を確認することができた。

以下に、２島の共通の課題と島ごとの課題を示す。

【与論島、喜界島に共通する課題】

- ユニバーサルツーリズムの島内移動について、専用車両は島民利用があるため、折りたたんだ車いすを乗せられる車種の確認等とあわせてレンタカーの利用も検討する。
- 島内の観光施設、宿泊施設、飲食店や土産物店等の情報（入口の段差の有無、段差がある場合の高さ、車いすで使えるトイレ等の有無等の実際の利用に即したもの）収集と発信。
- 昼食と夕食に車いすでも利用できる飲食店情報の収集。
- 雨天時の楽しみ方や雨天時に対応可能な島内の観光ルートづくり。
- 各島の保健福祉団体等との協力体制等も視野に入れたユニバーサルツーリズムに対応する案内窓口や問合せ先の明確化。
- 観光、交通、保健福祉の関係者間の情報共有体制整備と観光や交通関係者の意識醸成。
- 奄美群島全体としてのユニバーサルツーリズム関連の情報収集、管理、一元的な発信。

【与論島の課題】

- 役場が収集してまとめている島内の公衆トイレ情報の公開。
- 観光施設や景勝地の車いす利用を想定した園路整備。

【喜界島の課題】

- 島内全体の車いすに対応したトイレが少ないため、利用可能なトイレ情報の収集と公開。
- 廃校利用施設（サンゴ礁科学研究所、埋蔵文化財センター等）の車いす利用者のアクセスの改善とトイレの改修。
- 車いす利用者に対応できる宿泊施設の確認。